共生社会の実現に向けて Vol. 12

問合先	役場企画課企画調整係（内線213）

◆アンコンシャス・バイアス～ハロー効果と慈悲的差別～

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身は気付いていない「ものの見方や捉え方のゆがみや偏り」のことで、共生社会の実現を妨げている要因の１つです。

今回は、ハロー効果と慈悲的差別を紹介します。

▷ハロー効果

ハロー効果とは、相手の一部の長所（短所）で全てが良く（悪く）見える、あるいは、ひとつの際立った特徴に引きずられて他の特徴も同じように評価してしまうことです。従って、ある人物に対して最初に良い（悪い）印象を抱くと、その後の評価も良い（悪い）ものになりやすくなります。ハロー効果があると、良い印象を持った人による共生社会に反する言動を否定しにくくなったり、逆に、悪い印象を持った人による共生社会に対する正しい言動を肯定しにくくなったりします。

▷慈悲的差別

慈悲的差別とは、自分より立場が弱いと思う他人に対して、本人に確認せずに、先回りして不要な配慮や気遣いをすることで、女性や少数派に対する好意的な思い込みが差別につながることです。

例えば、女性だからと職種を限定し、出張を免除することが、本人にはありがた迷惑だったり、障がいのある人は助けなければと思って、手助けをすることが本人の「同等に扱ってほしい」「自力でやりたい」という思いに反することもあります。そうした配慮をうれしく感じたり、必要である場合もありますので、対応は難しくなりますが、本人に確認することが大事です。

▲SDGsゴール10アイコン